「２０１９はたらく女性の集会」報告

２０１９年８月３１日（土）、連合北海道女性委員会は「２０１９はたらく女性の集会」を札幌市内で開催し、全道各地から１１産別２地区９１名が参加しました。

主催者挨拶で女性委員会の金子委員長は、「法整備がすすみ、働く環境が整ってきてはいるが、女性はその効果をまだ実感できない状況にある。法律面、利用面での支援を同時に行い、安心して働ける職場、能力を発揮できる環境を整えていくことが必要」と訴えました。

基調講演は札幌市男女共同参画センター　菅原亜都子さんより「はたらく上で知っておきたいジェンダー平等の現在」と題して行いました。生物学的性差（sex）と社会的・文化的性差（ジェンダー）は分けて考える必要があるといいながらも、実際は混ざってしまい、思い込みによってジェンダーがsexを再生産することが多く、状況を打破するには難しい現実があります。しかし、私たちはジェンダー平等について意識し、学習し、「思い込みと違う事実を重ねていくこと」「ロールモデルをつくっていくこと」で思い込みを変えていく必要があります。女性活躍の国際的潮流の変化をみても、ジェンダー平等へ向け着実にすすんでいることがわかります。誰もが生きやすい社会にしていくためには、「私たちは変わることができる、私たちは変えることができる」という視点に立ち、足元からできることを１つでも実践していくことが大切だ、ということを学びました。

産別報告では、２産別から報告がありました。全労金より、現在、正規職員を上回っている女性非正規職員の「処遇改善」のとりくみについて、

ＵＡゼンセンからは「カスタマーハラスメント」として、悪質クレーム対策について、具体的な事例をもとに報告されました。

最後に、齊藤勉連合北海道副事務局長より、連合北海道の定期大会の議案にも「男女平等をはじめとして、一人ひとりが尊重された『真の多様性』が根付く職場・社会の実現」を明記している、引き続き男女平等参画社会めざし、とりくみをすすめていこう、というまとめで集会を終えました。

女性委員会ではこれからも働く女性のエンパワーメントをはかるよう、集会を企画していきます。